

豊島区セーフコミュニティ 年間活動レポート 令和 6（2024）年度

Annual report 2024

Safe Community activities in Toshima City



SDGs 未来都市としま



豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

〔目 次〕

1. セーフコミュニティ活動を継続していくために	1
(1) 毎年度の活動を共有するための「年間活動レポート」	1
(2) セーフコミュニティ活動の二つの心臓	1
(3) 継続していくために大切なこと	2
(4) セーフコミュニティ推進自治体との交流等について	3
(5) インターナショナルセーフスクール活動について	4
2. セーフコミュニティの推進体制	6
(1) セーフコミュニティ推進協議会	6
(2) 対策委員会	7
(3) 外傷サーベイランス委員会	8
3. 地域区民ひろばにおける活動状況	10
(1) セーフコミュニティ活動の拠点「地域区民ひろば」の活動	10
(2) 区民ひろばにおけるセーフコミュニティ活動の実績	11
(3) セーフスクール活動との連携	14
(4) 令和 6(2024) 年度の主な取組み事例	18
4. 不慮の事故等による死亡・けがの状況	21
(1) 死亡に関するデータ（人口動態統計）	21
(2) けがに関するデータ（救急搬送データ）	22
5. 各対策委員会からの活動報告	26
(1) 子どものけが・事故予防	27
(2) 高齢者の安全	43
(3) 障害者の安全	58
(4) 自転車利用の安全	67
(5) 繁華街の安全	78
(6) 地震災害の防止	83
(7) 児童虐待の防止	99
(8) ドメスティック・バイオレンスの防止	110
(9) 自殺・うつ病の予防	122

1. セーフコミュニティ活動を継続していくために

(1) 毎年度の活動を共有するための「年間活動レポート」

セーフコミュニティ活動は、様々な予防活動の成果を確認し、改善を加えながら継続していくことが重要です。「年間活動レポート」は毎年度の活動や改善、工夫、成果を確認し、コミュニティ全体で共有するためのツールとして活用します。

このレポートは、セーフコミュニティネットワークの一員として、毎年、年度末に「日本セーフコミュニティ推進機構」に提出することになっています。

(2) セーフコミュニティ活動の二つの心臓

豊島区のセーフコミュニティ活動には、継続に向けたエネルギーを供給する二つの心臓があります。

一つは、重点課題に対応した「対策委員会」（「学校の安全」についてはインターナショナルセーフスクールで対応）です。もう一つは、セーフコミュニティの拠点として、小学校区単位で設置している「地域区民ひろば」です。

「対策委員会」は、第1の心臓として区民、行政、専門家が集まり、データ分析に基づく現状と課題の整理、分かりやすい情報提供を行うとともに、予防に関する改善策や学習プログラムを生み出します。

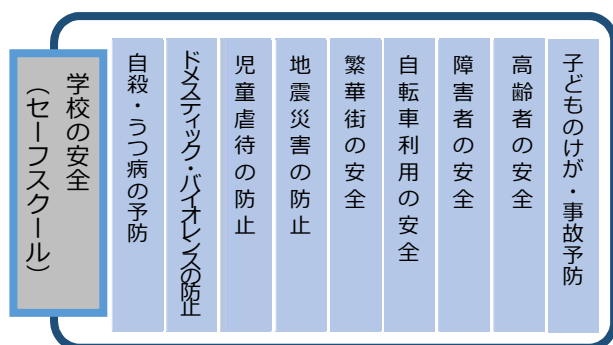
「地域区民ひろば」は、第2の心臓として「対策委員会」との連携により、各重点課題に関する情報、学習プログラムや相談の機会を提供し、幅広い区民にセーフコミュニティ活動を伝える役割を果たします。

高密度都市である豊島区は、「安全・安心」があらゆる政策の基盤であるとの考えに立ち、自治の最高規範である「自治の推進に関する基本条例」に、「セーフコミュニティ」と「地域区民ひろば」を位置づけ、参加と協働のまちづくりを進めています。

第1の心臓

重点課題に対応する **対策委員会**

豊島区セーフコミュニティ推進協議会



第2の心臓

小学校区単位の **地域区民ひろば**



(3) 継続していくために大切なこと

豊島区がセーフコミュニティ活動を継続していくためには、次の5つの視点を持ち続け、自らの活動を常に点検していくことが重要です。

- ①「対策委員会」は継続的に活動しているか
- ②「対策委員会」と「地域区民ひろば」の連携は広がっているか
- ③ 全体の仕組みは機能しているか
- ④ PDCA サイクルは回っているか（科学的な活動こそセーフコミュニティ）
- ⑤ 連携・協働は広がっているか（地域の主体が力を合わせてこそセーフコミュニティ）

① 対策委員会は継続的に活動しているか



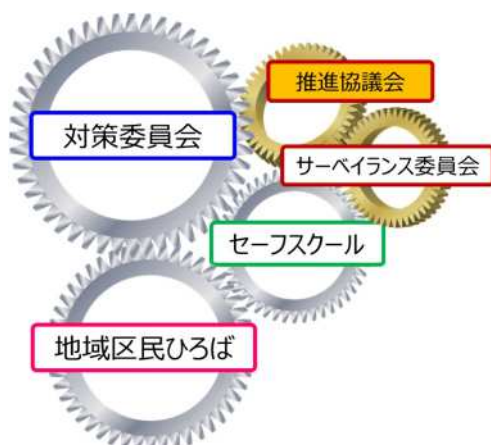
④ PDCA サイクルは回っているか



⑤ 連携・協働は広がっているか



③ 全体の仕組みは機能しているか



大学や研究者との連携、協力

都市間の連携



※ 横浜市栄区は令和 5(2023)年 10 月退会
※ 長野県箕輪町は令和 6(2024)年 3 月退会

（４）セーフコミュニティ推進自治体との交流等について

セーフコミュニティ活動の 6 つの指標の一つに、「国内外のネットワークへの継続的な参加」があります。豊島区は、ネットワークの一員として、国内外の都市や研究機関等と積極的に交流、連携し、相互に学び合う機会をつくっています。

令和 3(2021)～令和 6(2024)年における国内のセーフコミュニティ推進自治体との交流状況は、以下のとおりとなっています。

令和 3(2021)年

1 月	鹿児島市 セーフコミュニティ再認証「合意書署名式」オンライン参加
3 月	日本セーフコミュニティ推進機構オンライン定例会参加
5 月	都留市 セーフコミュニティ現地審査（認証）オンライン参加
6 月	厚木市 セーフコミュニティ現地審査（3 回目）オンライン参加
7 月	秩父市 セーフコミュニティ現地審査（再認証）オンライン参加
8 月	日本セーフコミュニティ推進機構オンライン研修会参加
10 月	全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議事務局連絡会 オンライン参加
11 月	厚木市 セーフコミュニティ再々認証「合意書署名式」オンライン参加 郡山市 セーフコミュニティ事前指導（再認証）オンライン参加

令和 4(2022)年

8 月	都留市 安全・安心フォーラムつる 2022 ポスター展示
9 月	松原市 セーフコミュニティ事前指導（3 回目）オンライン参加 全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議 オンライン参加
10 月	全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議事務局連絡会オンライン参加
11 月	郡山市 セーフコミュニティ現地審査（再認証）オンライン参加

令和 5(2023)年

2 月	日本セーフコミュニティ推進機構オンライン研修会 参加
3 月	日本セーフコミュニティ推進機構オンライン定例会 参加
7 月	亀岡市 セーフコミュニティ現地審査（国内認証）オンライン参加 久留米市 セーフコミュニティ現地審査（3 回目）オンライン参加
8 月	松原市 セーフコミュニティ現地審査（3 回目）オンライン参加 都留市 安全・安心フォーラムつる 2023 ポスター展示
10 月	日本セーフコミュニティ研修会 オンライン参加
11 月	十和田市 セーフコミュニティ現地審査（4 回目）オンライン参加 松原市 セーフコミュニティ認証式典 ポスター展示参加
12 月	セーフコミュニティ安全安心のまちづくり全国協議会首長会議 オンライン参加 亀岡市 セーフコミュニティ認証式（国内認証） ポスター展示参加

令和 6(2024)年 ※令和 7(2025)年 1 月現在

7 月	さいたま市 セーフコミュニティ事前指導（2 回目）オンライン参加
8 月	都留市 市制 70 周年記念「SC つるまつり 2024」ポスター展示 十和田市 セーフコミュニティ現地審査（4 回目）オンライン参加
10 月	セーフコミュニティ安全安心のまちづくり全国協議会事務局連絡会（幹事区）
11 月	セーフコミュニティ安全安心のまちづくり全国協議会首長会議 オンライン参加 十和田市 セーフコミュニティ認証式（4 回目）ポスター展示参加

（５）インターナショナルセーフスクール活動について

インターナショナルセーフスクール（ＩＳＳ）は、より安全な教育環境づくりに取り組む学校に与えられる国際認証です。「体のけが」「心のけが」の原因となる事故、いじめ、暴力などの客観的なデータを基に課題を発見し、児童・生徒の主体的な活動や学校・保護者・地域の連携・協働により予防することで、安全・安心な学校づくりを進めています。

令和３（２０２１）年度にさくら小学校と千川中学校が認証を取得し、認証校は１０校となりました。これにより全８中学校ブロックにＩＳＳ認証校が誕生しました。各小・中学校では、令和５（２０２３）年３月に作成した「豊島区インターナショナルセーフスクール認証校の取組を生かした安全・安心な学校づくりガイドライン」を活用しながら、ＩＳＳ活動のノウハウを生かした取組みの理解を深め「安全・安心な学校づくり」を推進し、子どもの危険回避能力の育成や保護者・地域の見守り体制の充実に努めてきました。また、令和５（２０２３）年度は、ＩＳＳ活動の特徴のひとつ「科学的アプローチによるけがの予防」に基づき正確で有益に活用できるデータの蓄積のために、全小・中学校の保健室来室記録の入力項目を統一しました。これにより、担当の養護教諭が代わっても経年でデータをより正しく比較・分析できるようになりました。

今後、ＩＳＳ活動は、これまで培った「安全・安心な学校づくり」を全校で実践するとともに、ＳＤＧｓ活動、防災活動などの新しい視点を取り入れ、コミュニティ・スクール（ＣＳ）の欠かせない活動の一つとしてさらに発展させていきます。

【認証校及び認証年度・回数】

※（ ）内の数字は認証回数

校 名		取得年度	校 名		取得年度
1	朋有小学校	平成 24(2012)年度(初) 平成 27(2015)年度(2) 平成 30(2018)年度(3) 令和 4(2022)年度(4)	2	富士見台小学校	平成 27(2015)年度(初) 平成 30(2018)年度(2) 令和 4(2022)年度(3)
3	仰高小学校	平成 28(2016)年度(初) 令和 元(2019)年度(2) 令和 5(2023)年度(3)	4	池袋本町小学校	平成 28(2016)年度(初) 令和 元(2019)年度(2) 令和 5(2023)年度(3)
5	池袋第一小学校	平成 29(2017)年度(初) 令和 3(2021)年度(2)	6	池袋中学校	平成 29(2017)年度(初) 令和 3(2021)年度(2)
7	高南小学校	平成 30(2018)年度(初) 令和 4(2022)年度(2)	8	清和小学校	令和元(2019)年度(初) 令和 4(2022)年度(2)
9	さくら小学校	令和 3(2021)年度(初)	10	千川中学校	令和 3(2021)年度(初)

【令和6（2024）年度CS校の「安全・安心な学校づくり」活動事例】



〔仰高小学校：安全・安心全校朝会〕
各学級の出組目標を発表しました。



〔池袋本町小学校：地域見守り隊発足式〕
地域・保護者の方々が児童製作の藍染たすきを付けて、見守り活動をしてくださいました。



〔さくら小学校：学校・町会合同防災訓練〕
消防団の方から三角巾や消火器の使い方を教えていただきました。



〔高南小学校：通学路点検〕
学校運営協議会委員の方々が通学路の安全点検をしてくださいました。



〔千川中学校：避難所運営ゲーム HUG〕
避難所を開設・運営する際に生じる様々な課題を想定し、よりよい避難所運営の方策を考えます。



〔清和小学校：あいさつ運動〕
全児童が交代で登校時刻にあいさつを行います。あいさつを交わすことにより、より良い人間関係づくりを目指します。

2. セーフコミュニティの推進体制

(1) セーフコミュニティ推進協議会

豊島区では、セーフコミュニティ活動の推進主体として、「豊島区セーフコミュニティ推進協議会」を平成 22(2010)年 2 月 22 日に設置しました。「推進協議会」は、安全・安心に関する活動に取り組んでいる幅広い組織や団体等から構成し、委員は令和 6(2024)年 12 月末時点で、153 名（区内団体等 123 名、行政機関 30 名）です。

「推進協議会」は、セーフコミュニティ活動の方針を決めるとともに、P D C A サイクル全体を管理しています。この「推進協議会」のもとに、重点課題に対応した「対策委員会」を設置しています（「学校の安全」はインターナショナルセーフスクールで対応）。

なお、令和元(2019)年度から令和 6(2024)年度までは、生活安全協議会及び総合高齢社会対策推進協議会と合同で開催しています。

●令和 6(2024)年度の開催状況

第 32 回	令和 7(2025)年 2 月 20 日(予定)	・各対策委員会からの実績報告 ・その他
--------	--------------------------	------------------------

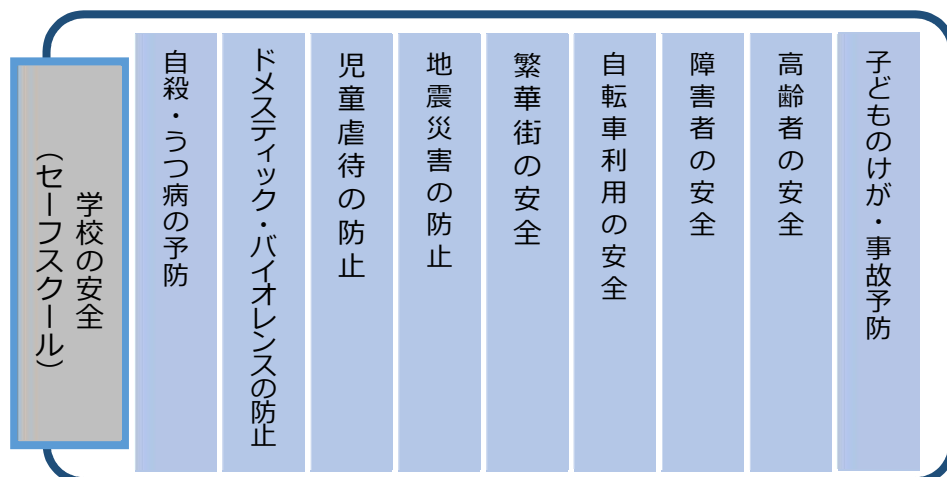
●豊島区セーフコミュニティ推進協議会の構成

- | | | |
|---------------|-------------------------|---------------|
| ○ 町会連合会 | ○ 消防少年団 | ○ 学習院大学 |
| ○ 商店街連合会 | ○ 保護司会 | ○ 女子栄養大学 |
| ○ 東京商工会議所豊島支部 | ○ 青少年育成委員会連合会 | ○ 大正大学 |
| ○ 観光協会 | ○ 交通安全協会 | ○ 帝京平成大学 |
| ○ 産業協会 | ○ 交通少年団 | ○ 東京音楽大学 |
| ○ 法人会 | ○ 交通安全活動推進委員協議会 | ○ 立教大学 |
| ○ 民生委員児童委員協議会 | ○ 小学校 P T A 連合会 | ○ 川村学園女子大学 |
| ○ 高齢者クラブ連合会 | ○ 中学校 P T A 連合会 | ○ 池袋労働基準監督署 |
| ○ 障害者団体連合会 | ○ スポーツ協会 | ○ 警視庁巣鴨警察署 |
| ○ 医師会 | ○ ラジオ体操連盟 | ○ 警視庁池袋警察署 |
| ○ 歯科医師会 | ○ スポーツ推進委員協議会 | ○ 警視庁目白警察署 |
| ○ 薬剤師会 | ○ ガーディアン・エンジェルズ | ○ 東京消防庁豊島消防署 |
| ○ 食品衛生協会 | ○ ボーイスカウト豊島地区協議会 | ○ 東京消防庁池袋消防署 |
| ○ 環境衛生協会 | ○ 宅地建物取引業協会 | ○ 東京都第四建設事務所 |
| ○ 母の会、女性会 | ○ 建築士事務所協会豊島支部 | ○ 東京都児童相談センター |
| ○ 池袋組織犯罪根絶協会 | ○ 全日本不動産協会豊島文京支部 | ○ 豊島区民社会福祉協議会 |
| ○ 区民ひろば運営協議会 | ○ マンション等管理団体 | ○ 豊島区 |
| ○ 防犯協会 | ○ としま N P O 推進協議会 | |
| ○ 環境浄化推進委員会 | ○ 豊島子ども wakuwaku ネットワーク | |
| ○ 消防団 | ○ ライオンズクラブ | |
| ○ 防火防災協会 | ○ 東京青年会議所豊島区委員会 | |

(2) 対策委員会

セーフコミュニティ推進協議会のもとに、重点課題に対応した対策委員会を設置しています。対策委員会は、様々なデータに基づき、テーマの中で優先的に取り組む（ハイリスクの）「予防対象」を設定して活動を進めています。対策委員会のメンバーは、地域で活動を展開している団体や行政機関、区の関連組織から構成しています。

●9 項目の重点課題に対応した対策委員会



●各対策委員会の委員構成

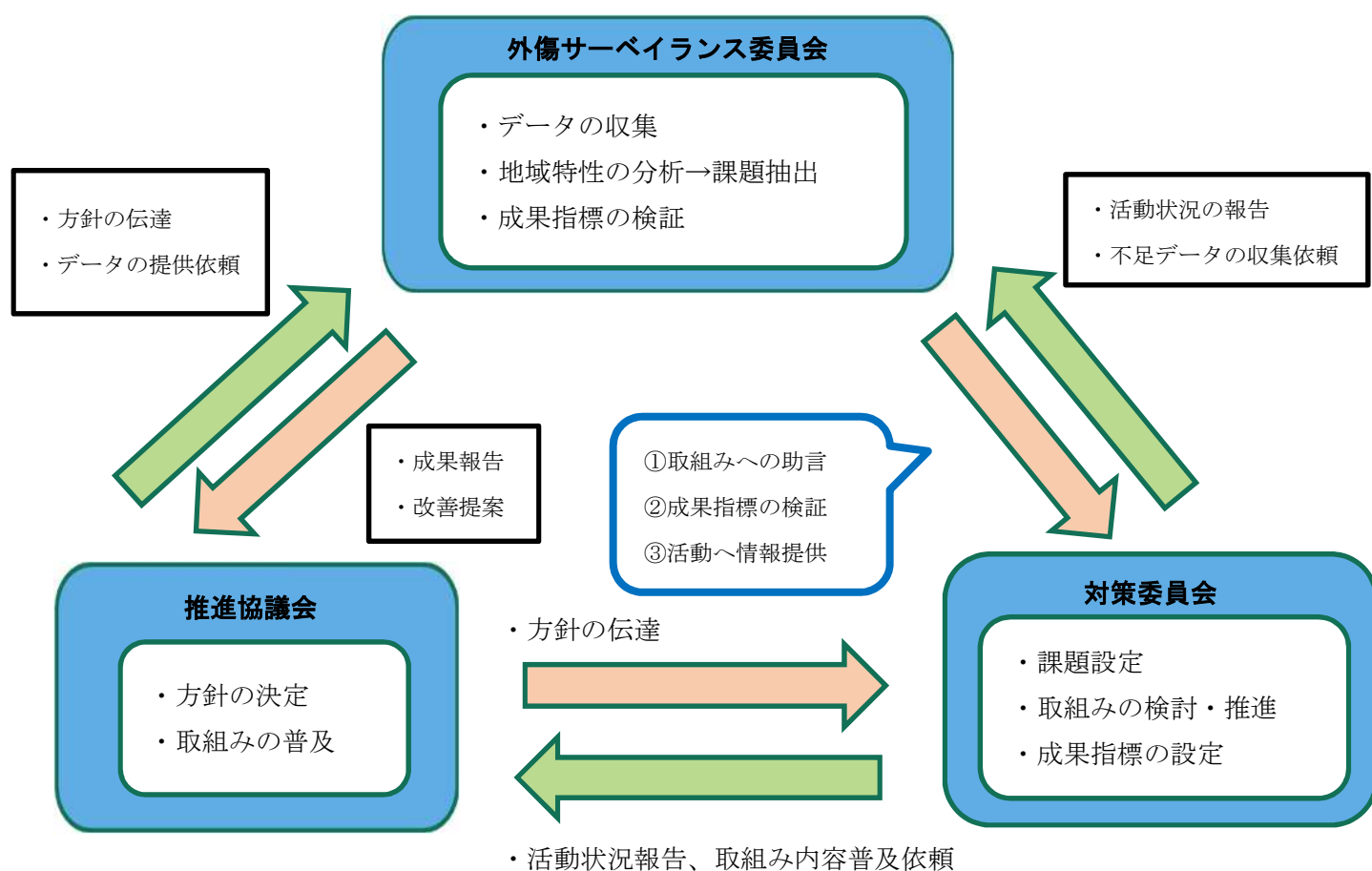
	対策委員会 (対策委員長)	委員会の構成			
		住民組織	事業者等	行政機関	計
1	子どものけが・事故予防 (対策委員長： —)	4 名	4 名	10 名	18 名
2	高齢者の安全 (対策委員長：竹野康二)	6 名	7 名	5 名	18 名
3	障害者の安全 (対策委員長：長谷川則之)	6 名	3 名	11 名	20 名
4	自転車利用の安全 (対策委員長：唐澤和子)	9 名	0 名	14 名	23 名
5	繁華街の安全 (対策委員長：岡谷晃治)	18 名	0 名	14 名	32 名
6	地震災害の防止 (対策委員長：外山克己)	14 名	2 名	11 名	27 名
7	児童虐待の防止 (対策委員長：高田慶子)	3 名	2 名	13 名	18 名
8	ドメスティック・バイオレンスの防止 (対策委員長：吉祥眞佐緒)	1 名	5 名	11 名	17 名
9	自殺・うつ病の予防 (対策委員長：近藤友克)	0 名	8 名	9 名	17 名
計		61 名	31 名	98 名	190 名

（３）外傷サーベイランス委員会

外傷の発生状況を把握する仕組みを構築するとともに、データに基づく地域診断と課題設定、評価方法の継続的検討や改善に取り組むため、「外傷サーベイランス委員会」を設置しています。

●外傷サーベイランス委員会の機能

- ① データ収集方法・分析方法の検討（傷害調査、社会調査等）
- ② データ収集・分析の実施
- ③ 地域診断、課題抽出
- ④ 成果指標の検証
- ⑤ 課題⇔対策⇔成果 相互の関係性検証
- ⑥ 対策委員会への助言、提案



●外傷サーベイランス委員会の開催実績（令和6(2024)年度）

	日 程	内 容
1	令和6(2024)年12月13日	1. 不慮の事故等による死亡・けがの状況 2. 高齢者の入浴事故の状況について 3. その他

●外傷サーベイランス委員会の構成（令和7(2025)年1月現在）

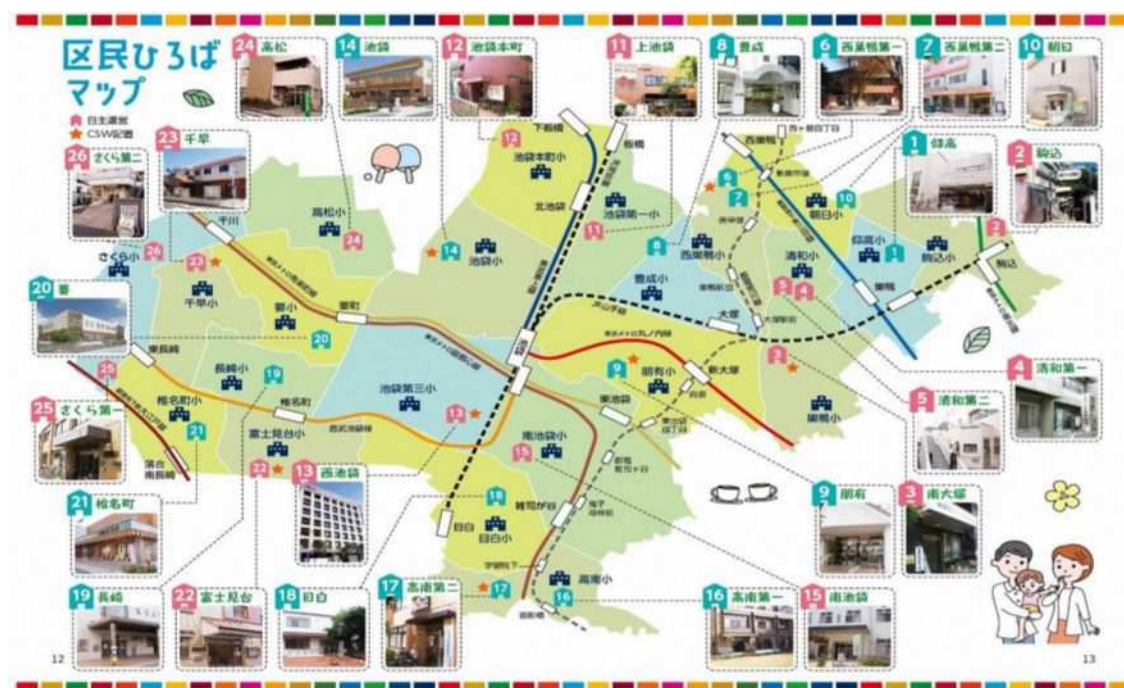
	所 属	氏 名	備 考
学識者・研究者	筑波大学 教授 医学医療系 保健医療学域	市川 政雄	委員長
警察	池袋警察署 生活安全課長	松比良 大輔	
消防	豊島消防署 警防課長	稲葉 健二	
保健所	池袋保健所長	寺西 新	
行政	政策経営部長	山野邊 暢	
行政(SC 担当)	セーフコミュニティ推進室長	五十嵐 友	事務局
行政 (対策委員会等担当)	子どものけが・事故予防 高齢者の安全 障害者の安全 自転車利用の安全 繁華街の安全 地震災害の防止 児童虐待の防止 ドメスティック・バイオレンスの防止 自殺・うつ病の予防 学校の安全（セーフスクール） 地域の安全（区民ひろば）	※委員会の検討テーマに応じて、 担当の課長が出席する。	

3. 地域区民ひろばにおける活動状況

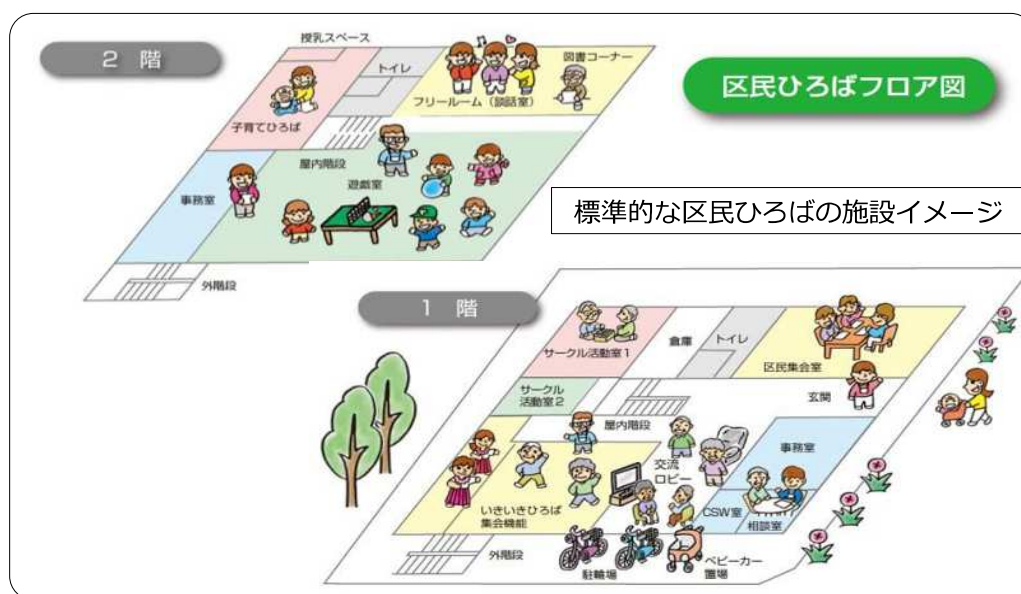
(1) セーフコミュニティ活動の拠点「地域区民ひろば」の活動

「地域区民ひろば」は、セーフコミュニティ活動の拠点として、各対策委員会と連携し、けがや事故の予防につながる情報や学習プログラムを提供することで、幅広く区民の皆さんにセーフコミュニティの活動を伝える役割を担っています。また、各種相談機能の充実を図ることで、安全・安心の地域作りに取り組んでいます。

この区民ひろばは、22小学校区の全てに設置されています。



※ 区民ひろば高南第二は令和7年秋頃まで改修工事のため休館となります。



（２）区民ひろばにおけるセーフコミュニティ活動の実績

①学習機会の提供と相談機能の充実（令和５（２０２３）年度の実績）

重点課題ごとに様々な学習プログラムを実施しています。区の施策として実施しているものと、各地区の区民ひろばの自主的活動として、運営協議会が実施しているものがあります。

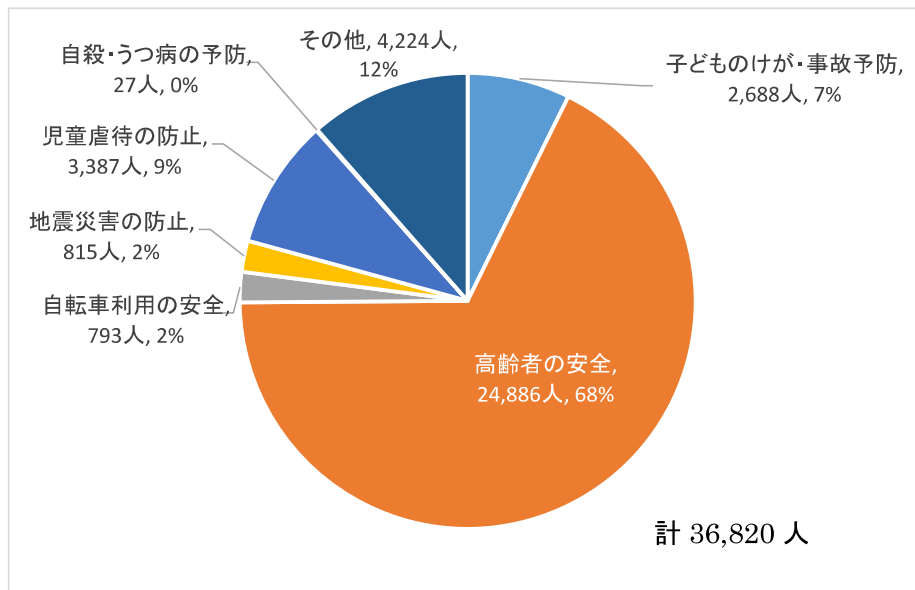
また、CSW（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）による相談をはじめ、高齢者総合相談センターや子ども家庭支援センターの出張相談など、区民の身近な相談の場として充実が図られています。

令和５（２０２３）年度は、３，５７５回の講座や教室等を開催し延べ３６，８２０人が参加しています。

重点課題	プログラム名	実施回数	延べ参加者数	合計
子どもの けが・事故予防	安全行動イメージトレーニング（あんトレ）	269	1,826	316 回 2,688 人
	健康講座（健康意識や身体機能の向上講座）	2	57	
	口腔講座	1	10	
	救命救急講座	1	18	
	事故予防講座	43	777	
高齢者の安全	介護予防・転倒予防のための運動プログラム	1,463	18,058	1,983 回 24,886 人
	認知症予防プログラム	434	5,814	
	高齢者の溺れ予防	3	120	
	口腔講座（オーラルフレイル対策）	2	35	
	認知症サポーター養成講座	7	132	
	高齢者見守り懇談会（高齢者サロン）	74	727	
自転車利用 の安全	高齢者向け交通安全研修会	22	391	45 回
	子育て世代向け交通安全研修会	23	402	793 人
地震災害 の防止	防災講座（講話・防災用品展示・非常食配付）	15	729	19 回
	防災訓練	4	86	815 人
児童虐待 の防止	出張子育て相談 （子ども家庭支援センター・民生児童委員）	162	3,387	162 回 3,387 人
自殺・うつ病の 防止	ゲートキーパー講座	2	27	2 回 27 人
その他	出張相談（包括・CSW・高齢者福祉課）	968	2,591	1,048 回 4,224 人
	安全・安心パトロール（地域の見回り）	0	0	
	防犯講座（悪徳商法、振り込め詐欺防止）	6	154	
	健康講座・口腔ケア講座	42	748	
	救急救命講座	2	35	
	子育て相談（保健所・保育園）	30	696	
合計		3,575	36,820	

※高齢者に関するプログラムの実施回数・参加人数が最も多くなっています。

重点課題別学習プログラム 延べ参加人数内訳



②情報提供（令和5（2023）年度の実績）

セーフコミュニティの取り組みの周知を図っています。

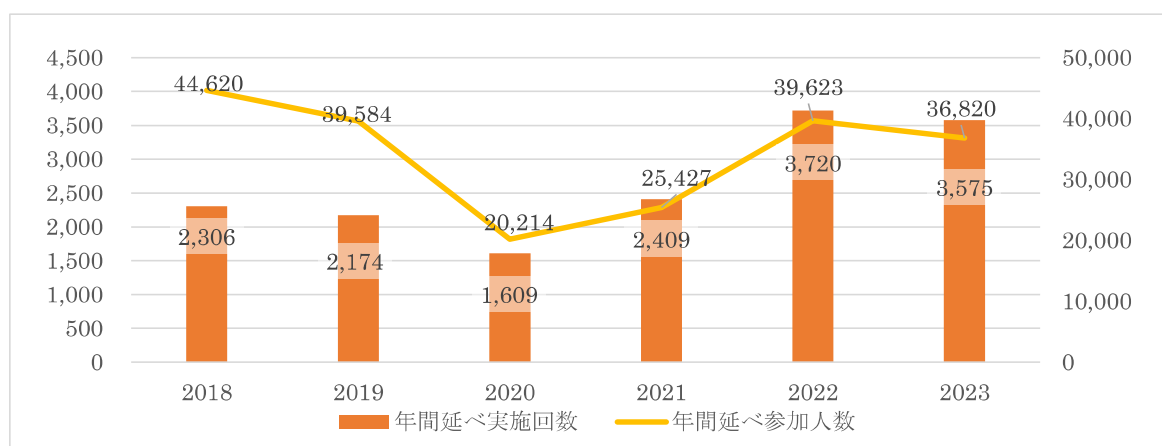
重点課題	配付物・掲示物
子どものけが・事故予防	・ミニキッズセーフ（けが防止器具の展示、情報提供） ・子どもの発育と『転倒』『転落』事故及びその防止策
高齢者の安全	・ご存知ですか？認知症のこと・気づいて！あなたのまわりの高齢者虐待 ・シニア×としまぐらし・高齢者総合相談センターの利用案内 ・転倒防止マニュアル・いつまでもイキイキ生活
障害者の安全	・障害者防災の手引き周知チラシ・ヘルプカード&マークケース周知チラシ
自転車利用の安全	・警視庁の交通安全情報（掲示）・交通事故発生地点マップ
繁華街の安全	・区内警察署からの地域安全だより（掲示）・防犯関係パンフレット
地震災害の防止	・防災のポイント（4か国語版）
児童虐待の防止	・子ども家庭支援センターのリーフレット ・児童虐待通告先周知用ポスター（掲示） ・オレンジコーナー（掲示） ・ヤングケアラーリーフレット（掲示・配布）
ドメスティックバイオレンスの防止	・DV相談カード ・DV相談窓口周知ステッカー（貼付・掲示）
自殺・うつ病の予防	・豊島区相談窓口一覧・メンタルヘルスリーフレット
学校の安全	・小・中学校情報コーナー・チラシ（ISS含む安全・安心情報）

【セーフコミュニティ学習プログラムの推移】

「地域区民ひろば」におけるセーフコミュニティ活動は、乳幼児から高齢者までを対象に多種多様な学習プログラムとして実施され、けがや事故を防止する安全・安心活動として定着してきています。

今後はより効果的な学習プログラムの実施に向けて事業の効果検証を実施し、充実を図っていきます。

セーフコミュニティに関する学習プログラム



※令和 2(2020)年 3 月 2 日～6 月 7 日まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

(3) セーフスクール活動との連携

小学校のセーフスクール活動は、人口1万人から2万人のエリアでの活動です。子どもの安全や学校の安全には、保護者や教職員をはじめ多くの住民が関心を寄せています。セーフスクール活動とセーフコミュニティ活動を連携することで、効果的に活動を進めていきます。

●区民ひろばのSC活動とセーフスクール活動との連携



●区民ひろば朋有&朋有小学校

区民ひろば朋有では、年に一度、朋有まつりで朋有小学校のISSの発表を地域の方々に向けておこなっていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止と、令和6（2024）年1月上旬まで仮施設での運営となったことから、現在も休止となっています。しかし、SDGsのゴール10「人や国の不平等をなくそう」・11「住み続けられるまちづくりを」・16「平和と公正をすべての人に」・17「パートナーシップで目標を達成しよう」などの観点からも、小学校、地域、区民ひろばが連携を図り、子ども達の安心安全を守って行こうと検討を進めています。

区民ひろばには日々多くの小学生が来館し、卓球やトランプ等のゲームを楽しんだり、宿題等の学習をしたりしています。そんな中で、子どもの変化や気になる点があれば、小学校へ報告していくことも、セーフスクールの取組みと考えています。



朋有小学校セーフスクールの取り組みコーナー

●区民ひろば富士見台&富士見台小学校

セーフコミュニティの拠点「区民ひろば富士見台」は日頃の世代間交流の機会に、人とのふれあいを大切に、地域を慈しみ、自己を育む機会にしています。また「ひろば」は学校と家庭の中間にあり、児童の安全・安心を見守る大切な空間でもあります。

令和2（2020）年からコロナ感染防止の観点から、富士見台小学校との取組みを休止していましたが、令和4（2022）年12月のISS再々認証の現地審査会に向けた取組みを契機に、新たな関係作りが始まっています。ISS地域対策委員長でひろば前理事長・足立菊保氏の任期時に再々認証、その後令和5（2023）年7月に開催された今年度第1回の地域対策委員会で、新たに飯泉理事長が引き継いで委員長に就任しています。

これまでも富士見台小学校のセーフスクール活動を支える取組みを年間事業計画に盛り込み、地域全体に伝える活動を実施してきましたが、令和5

（2023）年2月の富士見台小ISS再々認証報告発表会へのひろば利用者の団体として出席、ひろば祭典での児童の発表、同10月のひろば文化祭での児童による「SDGS取組み発表」など、交流と理解を深めてきました。

今後も、富士見台小学校ISSスローガン“安全守ろう富士見台 世界へ広げる安心の輪”を活かし、富士見台小学校のセーフスクール活動の取組みを支えていきたいと考えています。



富士見台ひろば『祭典』での発表

●区民ひろば清和&清和小学校

清和小学校の安全・安心な学校を目指した取組みが認められ、インターナショナルセーフスクールの再認証を受けました。ISSスローガンとして「思いやり 心をひとつに 安全・安心 清和小」を掲げ、今後も地域・小学校と一体となつての活動に取り組んでいきます。

区民ひろば清和では、SDGsへ取組みとともにセーフコミュニティの拠点として安全・安心情報コーナー/ISSコーナーの掲示板をラウンジに設置しています。



ひろば清和 ISS 情報コーナー

●区民ひろば仰高&仰高小学校

区民ひろば仰高では、かねてより地域との連携を深め、仰高小学校との交流を図ることで、地域の安心・安全活動を進めています。

小学校の授業のなかで区民ひろばを見学したり、展覧会の作品をお借りしてひろばに掲示したりすることで、「困ったことがあればSOSを発信できる場所」として区民ひろばが認知されるように努めています。また「ニコニコまつり」をとおして、地域と交流する機会を作り、お互いの顔がわかる関係づくりをしています。

さらに、館内に設置したISS情報コーナーでは、小学校の取り組みや活動などの情報を発信し、地域の方々に広く周知しています。

仰高小学校の「まちたんけん」では、ひろばに寄せられた様々な質問に映像や写真でお答えし、ひろばをより知ってもらうための交流を行いました。今後もセーフコミュニティの拠点として、地域・小学校・区民ひろばが一体となって、安全・安心な地域づくりに取り組んでいきます。



仰高小学校からのお知らせコーナー

●区民ひろば池袋本町&池袋本町小学校

池袋本町では、新型コロナ感染防止で自粛してきた『盆踊り』と『いけほんまつり』を昨年度再開しました。

どちらも予想以上の参加人数となり、その大半は乳幼児親子と池袋本町小学校の児童でした。『いけほんまつり』では、池袋本町小学校内にある子どもスキップによるプラバン工作が大人気で、他のゲームや販売コーナー、植木・絵本の抽選会でも異世代交っての賑やかな交流ができました。

その際には、池袋本町小学校と池袋中学校PTAにも実行委員として加わっていただき、地域の方々の熱意とパワーを発揮していただきました。広報部会で発行している「ひろばレポート」は、そのようなイベントを紹介したもので、町会だけでなく池袋本町小学校と池袋中学校に全家庭配布して、こまめにひろば活動の情報発信をしています。

また、一昨年度から始めた『小学生の卓球』は、ボランティアの大人のご尽力で続いており参加者は月1回の事業を楽しみにしてくれています。

日々の登校時には地域やPTAの方々が交代で道路わきに立ち、子ども達への声がけを行っています。

ひろば職員も出勤時には必ず藍染のISS表示のたすきをかけ、登校する小学生に声をかけています。「おはようございます」と笑顔でかえされた時は嬉しいものです。

区民ひろば池袋本町では、イベントだけでなく地域の方々や子ども達との日々のコミュニケーションを大切にしています。



いけほんまつりでのプラバン工作の様子

●区民ひろば上池袋&池袋第一小学校・池袋中学校

区民ひろば上池袋は、近隣に池袋第一小学校・池袋中学校があり両校ともインターナショナルの国際認証を取得しています。池袋第一小学校は令和4（2022）年度2学期から「森の中の学校」をコンセプトに新校舎での授業が始まりました。ひろばは毎年、池袋第一小学校の授業での交流があり、今年度も2年生の見学会や6年生の職場体験があり、職場体験では利用者の皆さんと一緒にSDGs「Tシャツで作るエコバック」を作りました。またひろば職員・利用者が学校に行き、1年生と昔遊びを通して子どもたちとの交流を深めました。

区民ひろばの館内には「みんなで作るとしまセーフコミュニティ」の掲示板を設置し、「池一小たより」「ISS関連の情報」を掲示しています。

今後もセーフコミュニティの拠点として地域のコミュニケーションの輪を広げ、ISS活動と連携し、地域の安全・安心の意識向上に取り組んでいきます。



Tシャツで作るエコバッグ制作



池一小でのむかしあそび

●区民ひろば高南&高南小学校

高南小学校は平成30（2018）年度にインターナショナルセーフスクールの国際認証を取得し、令和4（2022）年度には再審査を経て2度目の認証を受けました。区民ひろば高南は、ISS地域対策委員の一員として取り組みを共有し、地域のセーフコミュニティの拠点として情報発信をしています。

「高南ひろばまつり」や「新春の集い」などの世代間交流事業を通して児童と地域が顔見知りになり、つながりを深めることは児童の見守り体制の強化につながっています。令和3（2021）年度からは「フリー卓球」、令和5（2023）年度からは「みんなでモルック」を新たな事業として開始し、日常的に児童と地域が顔見知りになる機会を設けました。「高南ひろばまつり」は高南小学校校庭で、運営協議会、町会、育成委員会、民生委員・児童委員、PTA、地域企業が実行委員会を組織し毎年開催しています。コロナ禍での中止もありましたが、令和4（2022）年度から再開し、今後も継続して開催することにより地域ぐるみで安心・安全な取り組みを推進していきます。



高南ひろばまつりの様子



みんなでモルックの様子

●区民ひろばさくら&さくら小学校

区民ひろばさくらでは、これまで”ひろばさくらまつり”やさくらの文化祭、さくら小の町探検などで交流を図りながら地域の安全・安心と共にさくら小学校との連携を深めてきました。

さくら小学校は令和3（2021）年度にISS認証を受け、校内の安全安心に向けた活動に力を入れています。

区民ひろばさくらは「クリーンサポーター」の活動に取り組み、通学路の点検を兼ねたゴミ拾い活動を毎月実施し、校外での小学生の安全に配慮しています。地域の安全安心及び環境美化活動が認められ、令和4（2022）年12月には豊島区から“感謝状”をいただきました。

さくら小学校の子ども達が考えた「さくらしぐさ」と「さくらルール」に沿った学校生活がより安全・安心に過ごせるよう、地域・学校・区民ひろばの連携をより一層深めてまいります。



ひろばさくらによるクリーンサポーター

（４）令和6（2024）年度の主な取り組み事例

●介護予防・転倒予防プログラム

区民ひろばの代表的なプログラムとなっており、楽しみながらできる体操のプログラムを多数実施しています。

としまる体操などのプログラムを定期的の実施し、日常的に体操を行いながら健康な生活を送っていただけるサポートをしています。

また、22地区すべての区民ひろばにフレイル測定機器を設置し、フレイルチェック事業等に活用しています。



「としまる体操」（区民ひろば池袋）



「音トレ」（区民ひろば仰高）

「にぎにぎ元気体操」（区民ひろば西巣鴨第一）



「転倒予防体操」（区民ひろば要）



「としまる体操」（区民ひろば目白）

●安全行動イメージトレーニング（あんトレ）

乳幼児の保護者を対象に、イラスト教材を活用して、身の回りの危険を理解し、日常的な安全行動に対する認識を高めるプログラムです。

平成28・29（2016・2017）年度の2年間に22か所すべての区民ひろばで外部講師による「安全行動イメージトレーニング」（あんトレ）を実施しました。

令和6（2024）年度は、日常的なプログラムの中でも随時取り入れながら、生活環境を改善する取組みとして実施し、10月末現在27回、延べ399人が参加しています。



（区民ひろば西巣鴨第二）



（区民ひろば豊成）

●防災講座・防災訓練

防災危機管理課をはじめ、地域の消防署などに協力を得て、各区民ひろばで防災講座や防災展を実施しています。講座では災害時に役立つ知識やグッズの作り方を学び、参加者にも好評です。

また区民ひろばは発災時に「補助救援センター」の役割を担うため、平成29（2017）年度からは、運営協議会やNPO法人等地域の方と一緒に訓練を重ね、自助・共助の精神の啓発にも努めています。

さらに平成30（2018）年度からは、発災した直後に区民ひろばを利用している方の安全確保を目的とした「利用者保護訓練」を実施し、職員の災害対応力の向上に努めています。防災訓練には他地区からの参加もあり、区内各地域の防災力向上につながっています。



防災講座
（区民ひろば要）



利用者保護訓練
（区民ひろば西池袋）

●ミニキッズセーフ【安全・安心情報の発信とセーフティグッズの展示】

セーフティグッズの展示等を通じて子どもや子育ての安全・安心に関わる情報提供を行うとともに、乳幼児の事故を予防する安全な生活環境づくりを啓発しています。



ドア用蛇腹ガード



引き戸用ドアセーフティ



小児用 AED

● C S W配置による相談機会の提供

区民ひろばでは、豊島区民社会福祉協議会と連携して CSW（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）を配置し、生活の中での困りごとなどに対応するため、CSW による相談機会の提供を行なっています。

平成27（2015）年度を以て、高齢者総合相談センター全8圏域に点在する8か所の区民ひろばに CSW の配置が完了しました。これにより、区民ひろばと CSW との連携による取組みが強化され、区民ひろばまつりや各種イベント行事では、CSW の活動を広く区民に周知する活動紹介ブースを設置しています。

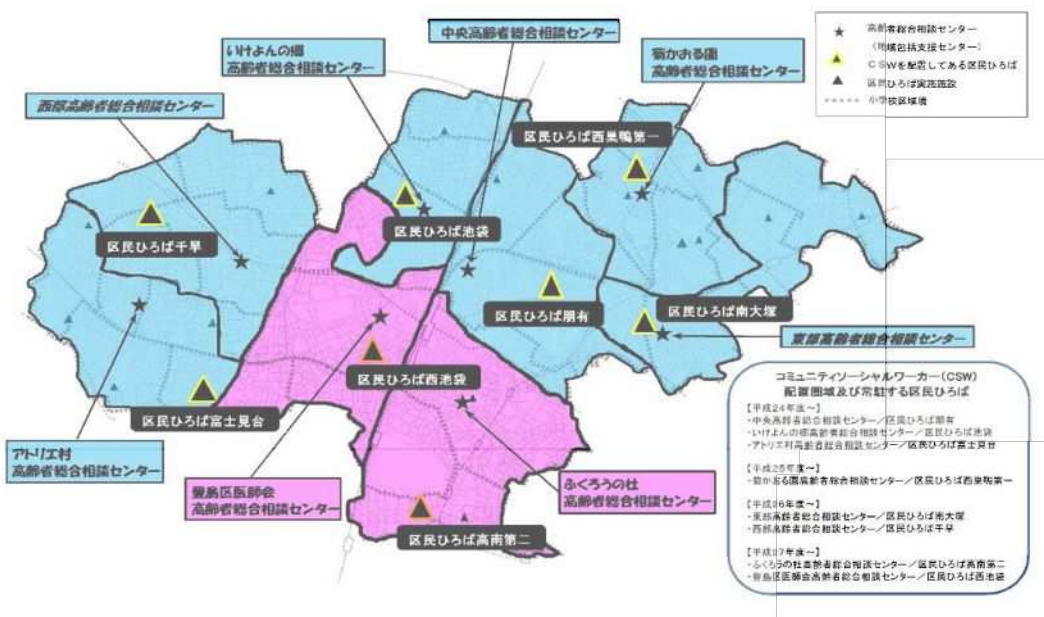
配置年度	区民ひろば	圏域(累計)
2012年度	朋有、池袋、富士見台	3圏域
2013年度	西巣鴨第一	4圏域
2014年度	南大塚、千早	6圏域
2015年度	西池袋、高南第二	8圏域



ひろばまつりでの CSW コーナー
(区民ひろば要)



CSW との共催事業「スマホ相談会」
(区民ひろば西池袋)

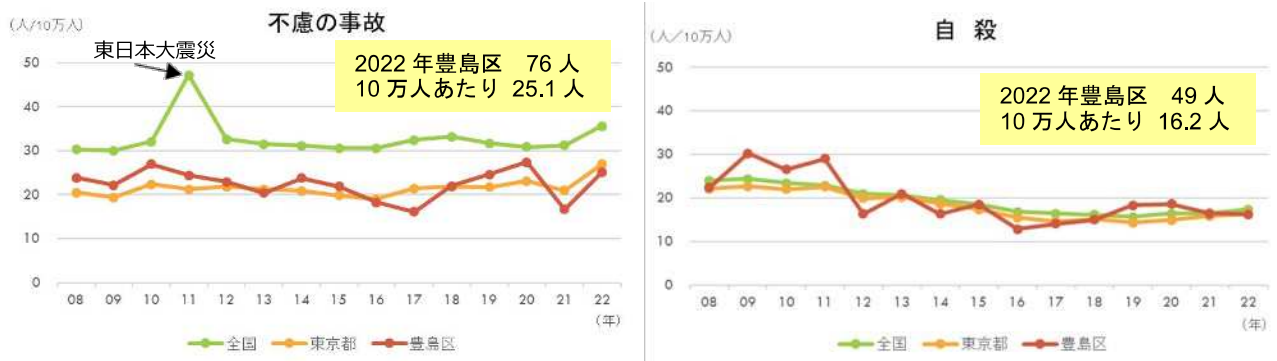


4. 不慮の事故等による死亡・けがの状況

(1) 死亡に関するデータ（人口動態統計※）

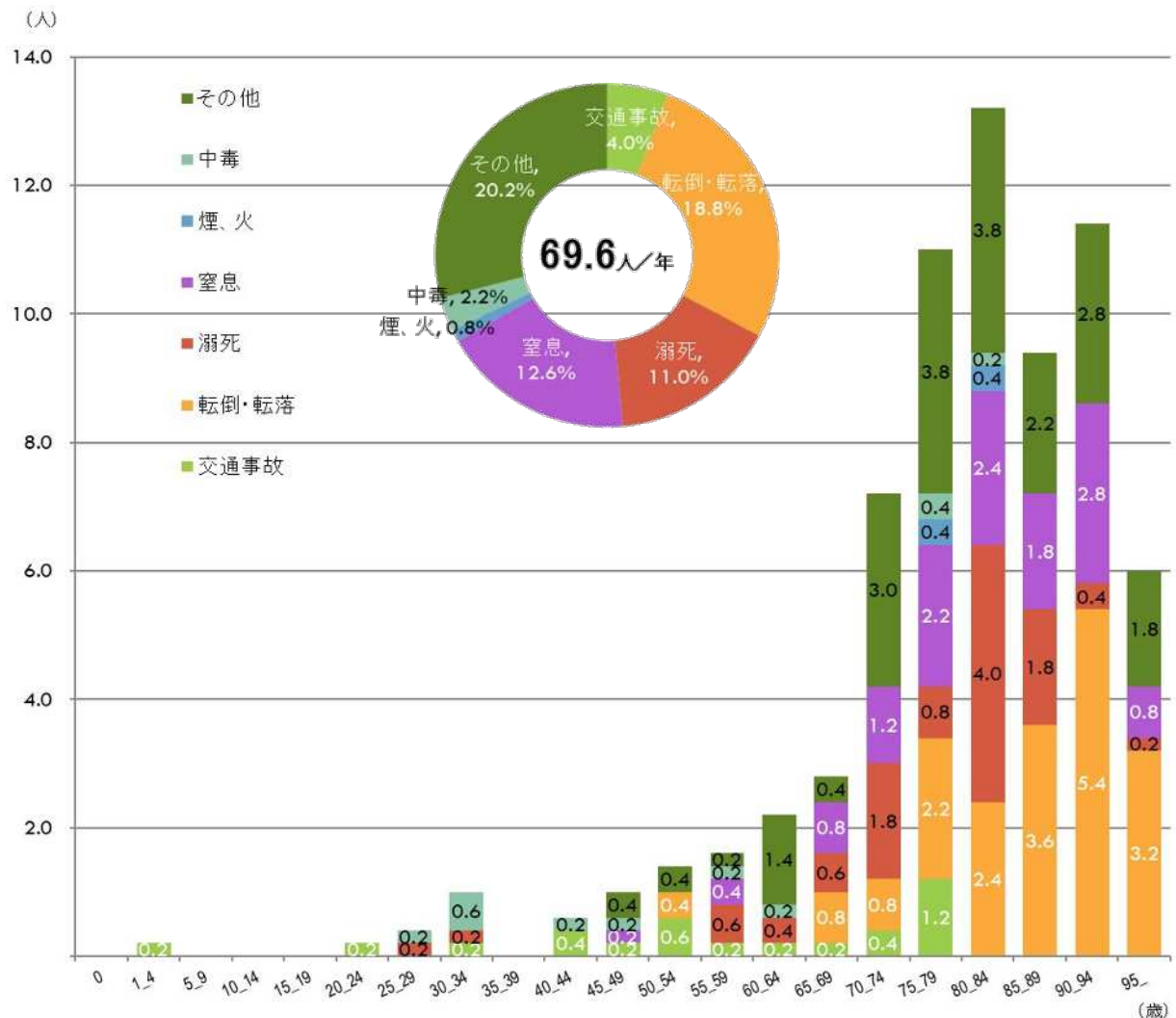
※厚生労働省が実施する人口動態調査の調査票情報を利用した独自集計であり、厚生労働省の公表数値とは一致しない場合があります

① 死亡の状況（人口10万人あたり）

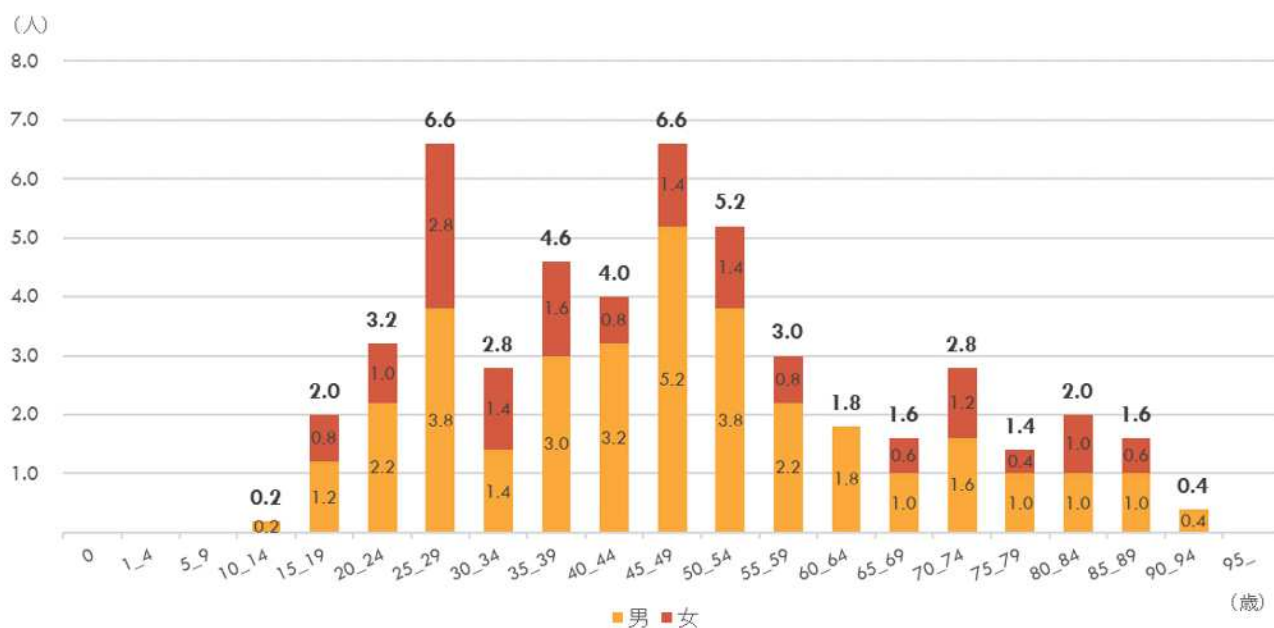


※ この項目は人口動態統計を用いた「豊島区の保健衛生」から数値を引用しており、発行時期の兼ね合いで2022年までとなっております。

② 不慮の事故による死亡〔年齢別〕（令和元(2019)～令和5(2023)年の平均値）



③ 自殺による死亡〔年齢別〕（令和元(2019)～令和5(2023)年の平均値）



（２）けがに関するデータ（救急搬送データ）

① 救急搬送件数の推移

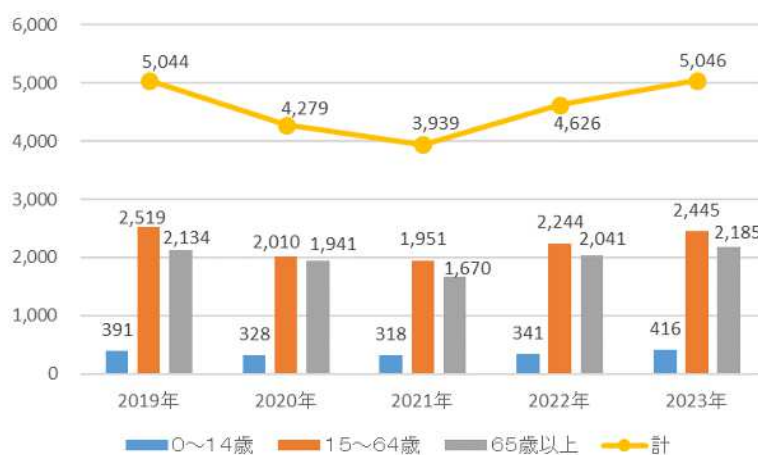
豊島区では、セーフコミュニティ活動の外傷サーベイランスの一つとして、消防署の協力により、個人情報を除く救急搬送データの提供を受け、傷害分析を行っています。

豊島区内への救急出動のうち、事故やけがにより受傷し、医療機関に搬送され、医師に引き継がれたケースを抽出して分析することにより、けがの実態を把握することができます。

けがや事故によるものだけで、毎年平均 4,500 件程度（過去 5 年間）の救急搬送があります。

【主な項目】

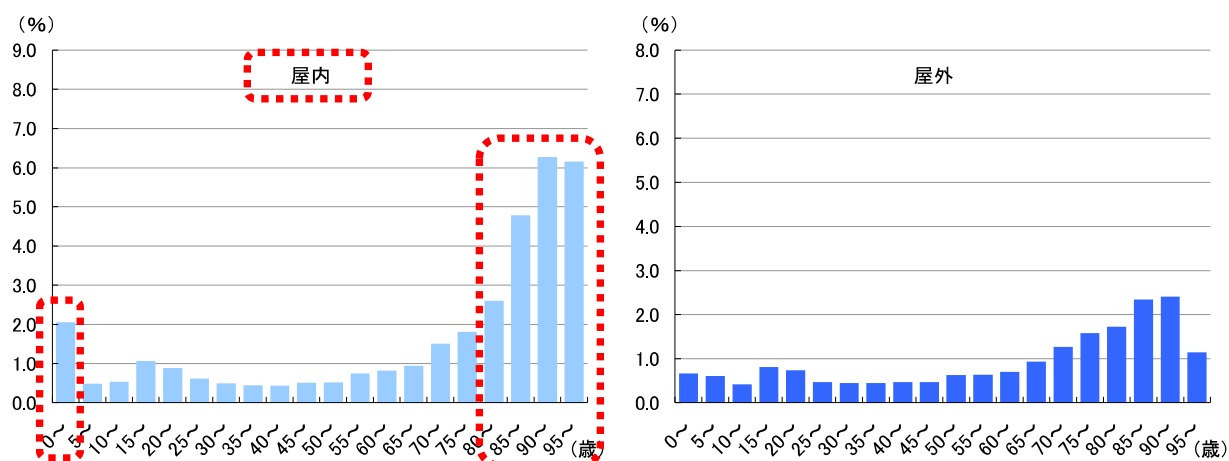
- ・ 受傷者の年齢、性別
- ・ 受傷した場所
- ・ 受傷の程度
- ・ 受傷の原因



② 救急搬送に至った事故の発生率 [令和 5(2023) 年]

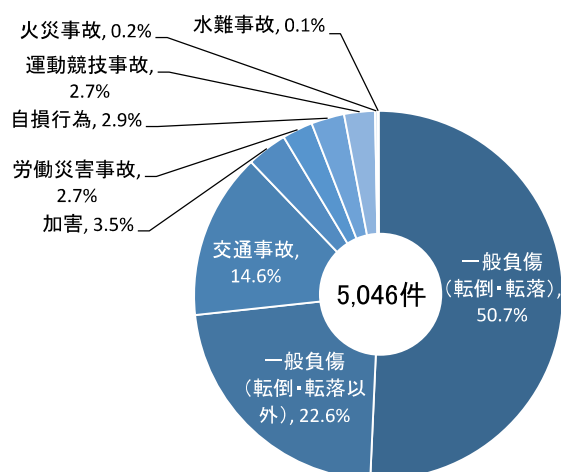
区内で発生したけが・事故による救急搬送は、令和 5(2023) 年は 5,046 件でした。

各年齢層の人口をもとに各年齢層での発生率を算出すると、全体的に屋外よりも屋内での発生率が高くなっています。特に 0～4 歳、80 歳以上の発生率が高く、高齢者は年齢が高くなるにつれて、発生率も上昇しています。



③ どんな事故が多いか [令和 5(2023) 年]

事故の種別ごとに救急搬送の状況をみると、全年齢では一般負傷（転倒・転落）の割合が 50.7% と最も多く、次に一般負傷（転倒・転落以外）が 22.6% となっています。65 歳以上では、転倒・転落が 7 割以上を占めており、0～14 歳では、転倒・転落以外の一般負傷と運動競技事故の割合が全年齢と比べて高くなっています。

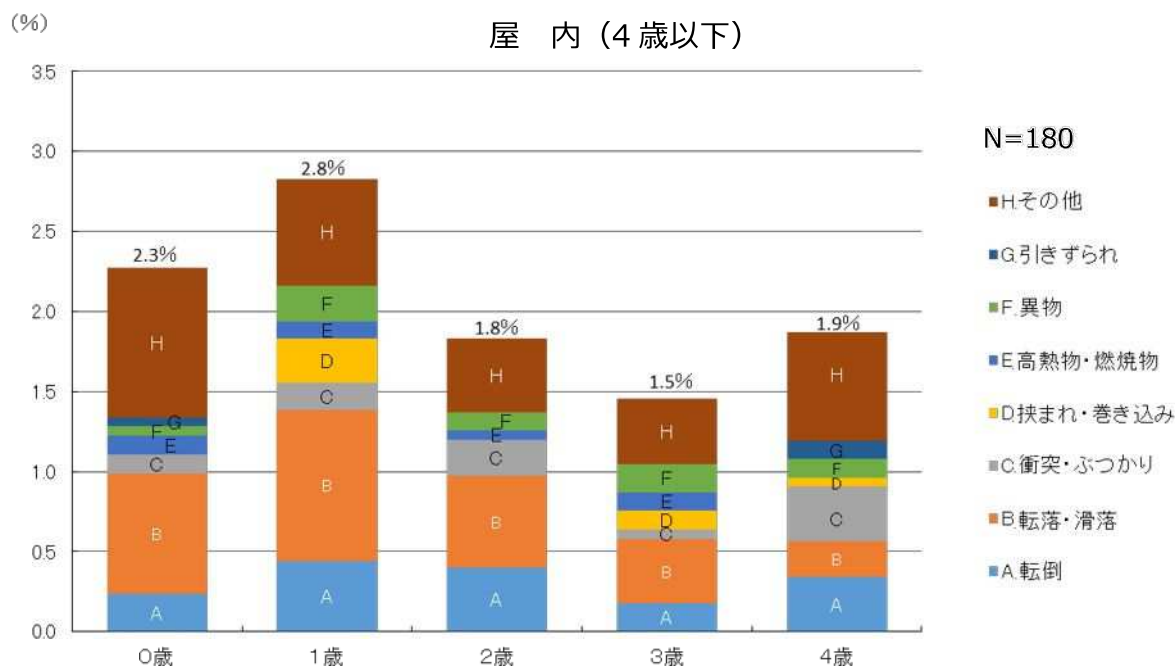


	全年齢	
	うち0～14歳	うち65歳～
合 計	5,046	416 (100.0%)
一般負傷 (転倒・転落)	2,559	149 (35.8%)
一般負傷 (転倒・転落以外)	1,140	191 (45.9%)
交通事故	735	49 (11.8%)
加害	179	4 (1.0%)
労働災害事故	135	0 (0.0%)
自損行為	147	0 (0.0%)
運動競技事故	136	23 (5.5%)
火災事故	11	0 (0.0%)
水難事故	3	0 (0.0%)
自然災害事故	1	0 (0.0%)

④ 4歳以下の屋内でのけがの原因 [令和5(2023)年]

屋内でのけがの発生率が高い0～4歳の子どものについて、もう少し詳しく見ると、1歳が2.8%と最も高く、次いで0歳が2.3%という順になっています。

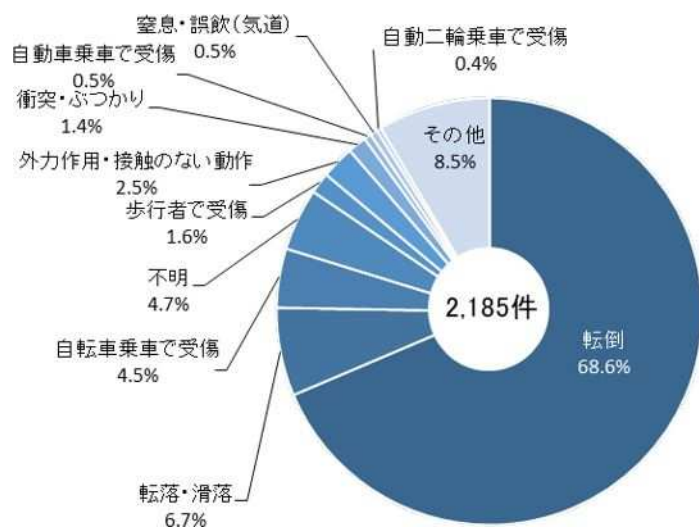
また、けがの原因を見ると、0～3歳は転落・滑落が多く、4歳は転倒、衝突・ぶつかりが多くなっています。



⑤ 高齢者のけがの原因 [令和5(2023)年]

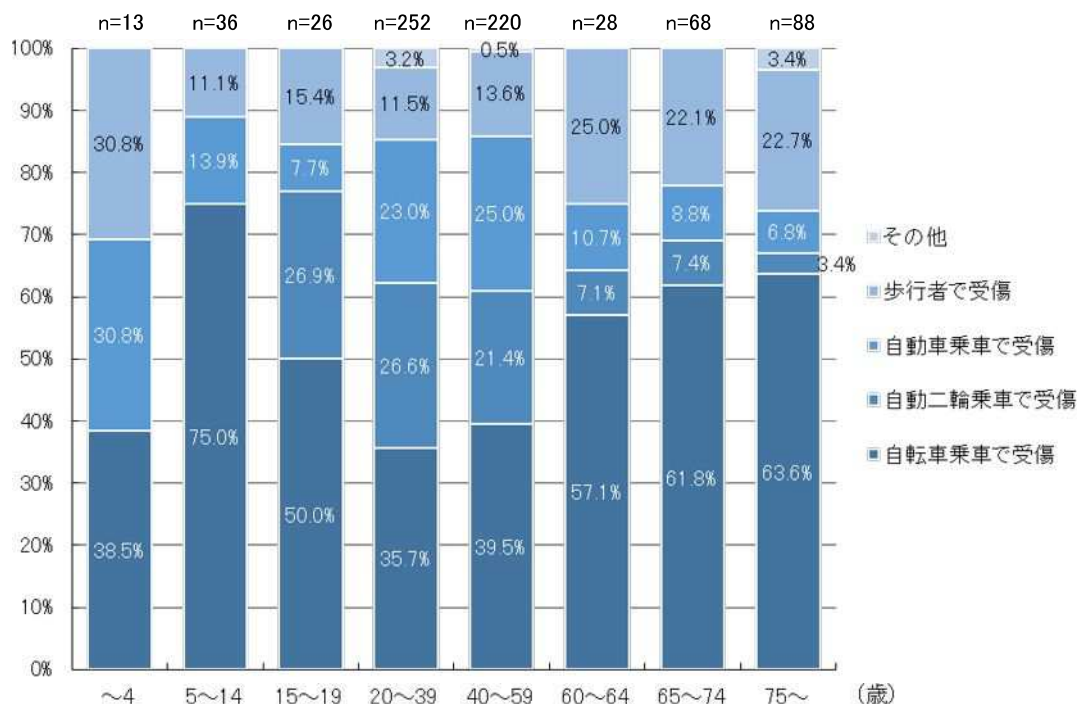
高齢者のけがの状況について救急搬送データをみると、転倒と転落・滑落が約7割となっています。

一方、不慮の事故による死亡原因 (P44 参照) においても、転倒・転落が最も多く、次いで不慮の窒息が多くなっています。



⑥ 交通事故によるけがの状況 [令和 5(2023) 年]

救急搬送データから、年代別に交通事故の発生状況をみると、0～4 歳、20～59 歳を除くすべての年代で、自転車乗車で受傷が 5 割を超えています。特に、5～14 歳は 75.0%と多くなっています。



⑦ 自殺未遂の状況 [令和 5(2023) 年]

救急搬送データの自損行為（自殺・自殺未遂）による救急搬送は、2023 年では 147 件発生しています。年齢層別にみると 20 歳代が 65 件で最も多く、全体的には男性よりも女性が 65 件多くなっています。

